

## 県経済訪問団

# ベトナム進出の加速実感

## 現地で交流会 県内27社が活動

【ベトナム・ホーチミン市で政治部・米沢慎一郎】県ベトナム・タイ経済訪問団は17日、ホーチミン市内のホテルで、県内から現地に進出している企業との交流会を開いた。日本人駐在員や領事館関係者と、高い経済成長率を誇る現地のビジネス事情について懇談。県内から既に27社（9月現在）が進出し、成長のエネルギーを取り込むとともに企業進出が加速しそうな現状に理解を深めた。

ベトナムは2000年代に100％以上の平均経済成長率は海外からの直接投資が増え、17・26％を達成。日本からの

進出企業は2千社を超えている。

交流会には、県内から現地に進出している14社・2団体の19人を含む約30人が出席。中には生産拠点の設置を見据え、駐在事務所を設けて準備を進める企業の関係者もあり、ベトナム進出意欲が高まっていることをうかがわせる。

### 「従業員は勤勉」

ファイネクス視察

県ベトナム・タイ経済訪問団は17日、ホーチミン近郊にある電子部品メーカー、ファイネクス（舟橋村舟橋）の現地工場を視察した。

ファイネクスは2012年、初の海外生産拠点としてホーチミン北部の工業団地に進出。富山本社やベトナム国内向けに、機械部品を製造している。

た。

県経済訪問団を代表し、非破壊検査会社「アイベック」（富山市上野新町）の吉岡裕一社長が「多くの県内企業が進出していることに驚いた。皆さんの経験を聞かせてもらいたい」とあいさつ。在ホーチミン日本総領事館の矢ヶ部義則首席領事は「ベトナムは若くて豊富な労働力があり、治安も良い」とし、企業進出の条件がそろっていることを説明した。

県は今回の訪問を機に、ベトナムとの経済交流を活性化

現地法人「ファイネクスベトナム」の佐伯光一社長と西谷善弘工場長が案内。佐伯氏は現地従業員について「勤勉で細かい作業が得意。機械の使い方の習得も早い」と評価した。全ての事務職と一部の製造部門の従業員は日本語を話すことができ、仕事の指示は日本語だという。

こと5月の反中デモは工場近くでも発生。操業を2日間停止したが、「その後の経営に影響はない」とした。



県経済訪問団と現地企業の代表らが意見交換した交流会。左奥はあいさつする吉岡社長—ホーチミン市内のホテル

させたい考え。来年2月に県「ものづくり総合見本市」には内企業向けにベトナム投資セミナーを開催。現時点でベトナムから3社の出展が予定されている。